

★ 操 作 方 法 ★

ページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。



つれづれ
インタビュー
マンガびと
18

1コママンガ専門誌「EYEMASK」発行

野谷真治

逝って戻って 三途の川の桜散る

野谷真治

1コママンガと短詩（二行詩）は似ている
アイマスク56より

野谷真治（のやしんじ）・プロフィール
1961年神奈川県生まれ、1979年「蒼天社」設立、1989年「EYEMASK」創刊、蒼天社発行雑誌「サブカル誌」まぐま、表現誌「蒼天」、俳句誌「蛭」、蒼天社近年の単行本「みんなガンバレー!」坂井せいごう著、「どんぐりと山猫」畑中純著他



1コママンガには
さまざまな面白さがある

蒼天社という出版社を運営しながら、マンガ誌の「EYEMASK（アイマスク）」を発行しています。1コママンガの専門誌です。1コママンガと聞くと、新聞などに載っている政治家を風刺するようなものを想像すると思いますが、時代や事件を反映したパロディやナンセンスなもの、それから似顔絵も1コママンガのひとつです。海外では「カートゥーン」とも呼ばれていて、分厚い1コママンガの本が出版されたりしています。たとえばテーマが「ワイン」だとすると、それだけで一冊作られるような海外の文化があります。

私もマンガというと、ストーリーリーマンガばかり読んでいたので、1コママンガのことは全然知りませんでした。だから「アイマスク」の創刊号をつ

くるときは、ストーリーマンガを入れようと思っていました。実際、そのように進んでいたのですが、たまたま私の近所にマンガ家さんがいることを教えられて、会いに行っただけです。その方は森本清彦さんという1コマのマンガ家さんでした。いろいろ話をうかがうと、森本さんは70年代にヨーロッパに住んでおられて、向こうの1コマのマンガ家さんと交流があり、いろいろな1コママンガの本を見せてもらいました。日本にも1コママンガを描く人はいるんですかと聞いたら、たくさんいると。もし1コママンガで雑誌をつくるんだしたら、紹介するよと言われました。でも創刊号にはストーリーマンガの作品が集まっていたので、とりあえず巻頭に森本さんの1コマを入れさせてもらいました。

そのあと1コマのマンガ家さんを紹介してもらいました。あと1コマの人たちはよく展覧会をやるんですね。そういう場所に行つて知り合ったりして、

「アイマスク」は創刊2号から1コママンガを中心に載せるようになりました。

1コママンガは見て面白いものもあるし、一見するとわかりづらいものもあります。自分が面白くないと思つても、他の人が見て面白いということもあります。創刊の頃はとにかく知り合ったマンガ家さんにできる限り声をかけて、毎回総入れ替えに近い感じで載せていました。その後、作家もある程度固定した方が、読者がついてくるのではないかというところで、最近は決まった人に描いていただくことが多いですね。

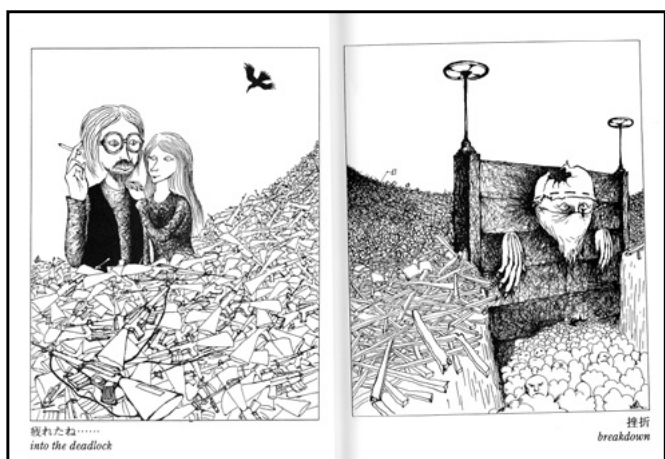
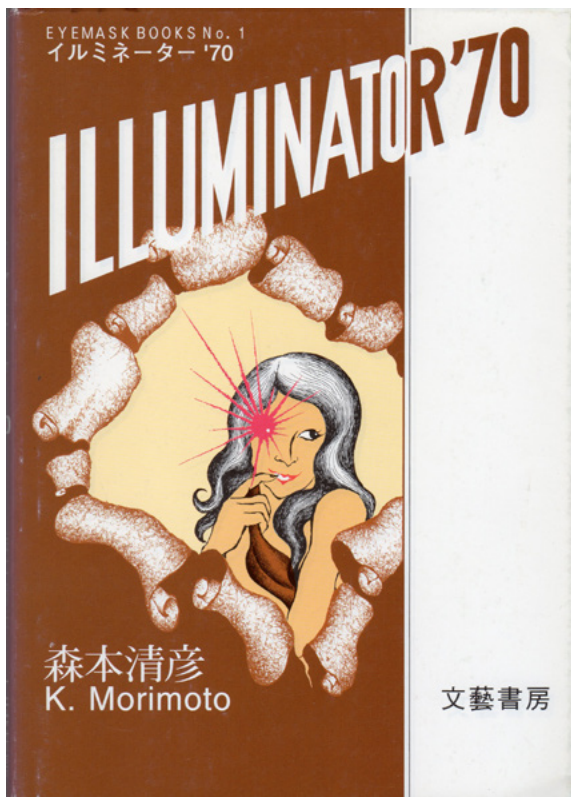
現在は年に2回の発行です。政治をテーマにした1コママンガを描いている人も多いんですが、情勢が変わるとネタが古くなるんですね。たとえば安倍さんがいきなり辞めちゃったりすると、安倍さんの1コママンガを描いている人はたくさんいる

ので、困ることになります。年2回というのはそこがネックなんですね。時事的作品の掲載は難しいです。

1コマのマンガ家さんは、他にいろんなことをしながら描いている人がいます。趣味で描いている人もいるし、普段はイラストレーターと名乗っていない

がら、本当は1コマを描きたい人もいます。ただ、1コマだけで食べられている人は、今は少なくなつたのではないかと思います。

70年代ぐらまでは文藝春秋の「漫画読本」など、1コママンガをたくさん扱う雑誌もありました。また、星新一さんがアメリカの1コママンガを収集して本をつくったりしていましたね。1コマのマン



森本清彦氏の1コママンガの単行本「ILLUMINATOR '70」1998年初刷り発行。発売・文藝書房、発行・表現社、編集・蒼天社

が家さんが集まって出す同人誌などもあり、盛んではあったんですけど、今は1コママンガを載せる媒体は少ないです。共同通信が1コマのスペースがあつて全国配信しています。赤旗や社民党の広報誌に描いている人もいます。

そういう意味では、私の出している「アイマスク」は出す意義はあるんですけど、お金のやりくりを考えると難しいところもあります。

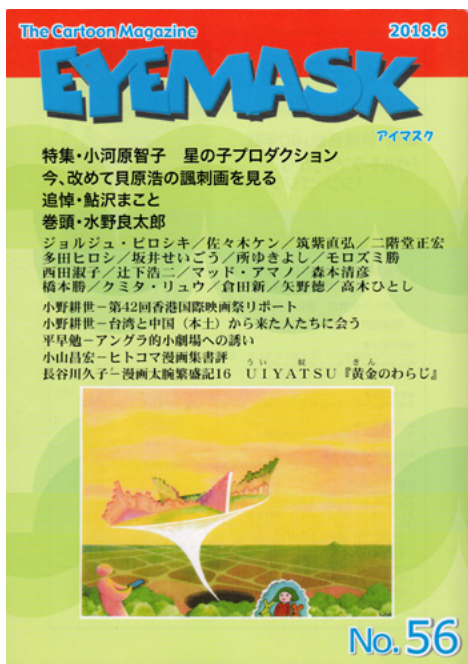


1コママンガが見つないだ縁
畑中純さんとの出会い

「アイマスク」をやっていくなかで、畑中純さんとお知り合いになりました。畑中さんはもともと1コママンガの人なんです。ソール・スタインベルグとか、日本だと久里洋二さんとか井上洋介さんとか、ああいう1コマ系の人に影響されて1コマを描いていたんです。畑中さんの最初の作品「それでも僕ら



1コママンガ専門誌「EYEMASK(アイマスク)」
55号2017年12月発行 発行・蒼天社



1コママンガ専門誌「EYEMASK(アイマスク)」
56号2018年6月発行 発行・蒼天社



は走っている」は1コママンガの作品集です。でも政治とか風刺ではなく、ナンセンスの1コマ作品で、それが畑中さんの世界でした。

その畑中さんのファンが「アイマスク」で描いている作家さんの中にいまして、彼が大阪で開かれた畑中さんの個展に行ったときに「アイマスク」を見せたらしいです。すごく興味を持ってもらえたみたいだと連絡を受けたので、銀座で畑中さんの展覧

会が開かれたときに、「アイマスク」を持ってご挨拶にいきました。体が大きく、大声で元気な人でしたね。畑中さんの「まんだら屋の良太」は「漫画サウンデー」で連載されていましたが、あの雑誌は創刊当時、1コママンガの雑誌だったんです。横山隆一さんとか長新太さんといった方々が描いていたんです。だんだん売れ行きの難しくなってきた、ストーリーマンガが中心の雑誌になっていきました。あとで聞いたところによれば、畑中さんはストーリーマンガの作り方を一生懸命勉強していたらしいです。仕事がなくとも、一日に描く枚数のノルマを決めて描いて、まとまったら出版社に持ち込んでいたみたいです。それが「まんだら屋の良太」につながったのでしよう。

畑中さんは、「アイマスク」には猫の版画で参加していただきました。畑中さんは版画家としても有

名でしたね。なぜ猫かというと、その頃に畑中さんが熱中していたのが猫だったんです。のちに猫の版画をまとめた作品集も出させてもらいました。それから宮沢賢治の「どんぐりと山猫」という作品を版面にしている絵本があつて、以前は筑摩書房から出ていたものをうちで復刻させていただきました。普通、版面は絵だけじゃないですか。でもこの絵本は文字も全部彫っているんです。作品の中では、活字はいつさい使っていないというすごい作品です。

畑中さんは見た感じ、豪快な人でしたけど、あとから考えると繊細な方だったと思います。東日本大震災が起きたのが2011年ですが、あのとときにかなり精神的なダメージがあつたようです。その頃から毎年、畑中さんの作品でカレンダーを作らせていただいていたのですが、12年にお亡くなりになりました。そのあとも奥さんとは繋がりがあつて、カレンダーは引き続き作らせていただいています。



「2018年畑中純カレンダー 永遠の月子」
発行・蒼天社



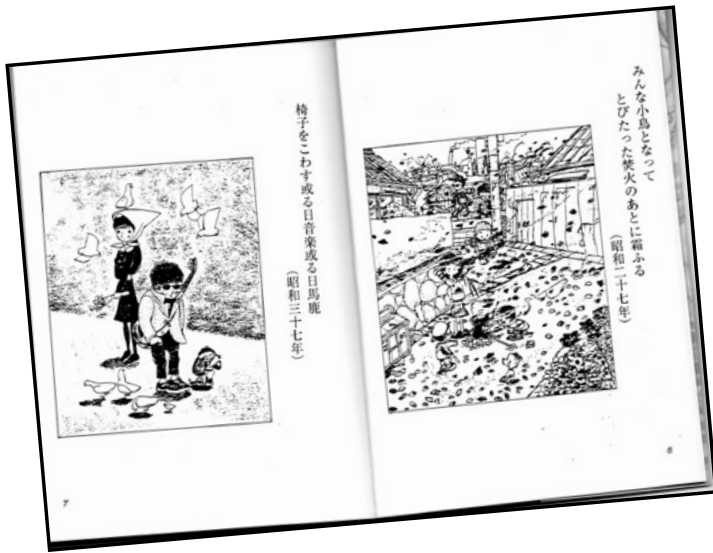
マンガに関わりの深い人生
そして永島慎二さんとの交流

私自身のマンガ体験を話しますと、たぶんマンガを意識したのは小学生の頃です。読んでいたのは、「怪物くん」とか「トイレット博士」など。毎週マンガ誌を買っていたわけではないので、マンガの記憶は断片的です。本当にマンガに夢中になって、自分でも描き始める人もいるじゃないですか。そこまでは行きませんでした。

大学生になると、「ガロ」を読むようになりまし

た。でもいわゆる白土三平さんが「カムイ伝」を描いている時代ではなく、南伸坊さんが編集長をしていた面白主義の頃ですね。蛭子能収さんやひさうちみちおさんといった人たちが活躍していました。「ガロ」つてやつぱりすごいなあと思って読んでいました。あとは北冬書房の「夜行」と「幻燈」。日本文芸社の「ぼく」など、あのあたりの、マンガ誌を読むようになってきました。

あと、私は高校生の頃から永島慎二さんが好きで、ファンレターを送ったんですね。そしたら丁寧な返事が来ました。当時、私は俳句を始めたことであつて文芸同人誌を出していました。当時、永島さんのまわりには、アニメーターとか詩人とか、マンガ以外のことに携わっている人が集まっていたんですね。俳人として私にも集まりに入らないかと誘われました。自分なんかが行ってもいいのかなと思



「空来たよ」著・来空 発行・蒼天社
来空氏の短詩に合わせて、永島慎二氏がイラストを描いている

ながら、参加するようになりました。

永島さんとしては、その集まりのメンバーで冊子をつくろうとしていました。自分たちが絵を描いたり、詩とか写真、私だったら俳句とかを入れて。冊子は2冊ぐらい出して、あとはみんなで美術館に行ったり、陶芸をつくったりしていました。私はただ楽しいから参加していました。

その後、永島さんは体を壊されて、阿佐ヶ谷から西荻窪に住まいを変えていました。たまには西荻に来いよ、という手紙をいただいたりしましたけど、体調が悪いところに行くのも申し訳ないなあと思っていました。結局その後は、お会いできないまま永島さんは亡くなられました。永島さんも畑中純さんと同じく、すごく大らかな人だったですけど、本当はまわりの人に気を遣うタイプでしたね。私と会った頃の印象では、口調も柔らかくやさしい人でした。

振り返ってみると、マンガに関わりの深い人生だと思えます。それでもマンガ家になろうとしたことはありませんでした。あ、でも、一度だけ描こうとしたことがあったんですよ。あれは大学を出てサラリーマンをやっていた頃かな。知り合いがマンガの講座を開くので、最初だけちよつと来てくれないかと。マンガは無理、とは言ったんですけど、正直、描けるようになったらいいなという気持ちも少しありましたね。でも、いざ描くとなると、なかなかうまくいかないですね。ちよつと落書きしただけというか、そこで終わっているんですね。

今後もしコママンガ中心で、「アイマスク」は続けていくと思います。ストーリーマンガの雑誌も出したいとは思いますが、なかなか難しい。コママンガの作家さんたちとのつながりは広がっているので、

「アイマスク」は何とか出せていますが。もっと若い人の作品を入れたいと思っっています。ネットを見ると、けっこう若い人たちが1コマを描いているんですね。これからもいろいろ声をかけていこうと思っっています。

インタビューを終えて

1コママンガと言っても、表現方法やテーマはさまざまであり、奥の深いものだということにあらた

めて気づくことができました。今後、新聞などで1コママンガを目にしたとき、見方が少し変わるような気がします。お話をうかがいながら、野谷さんのマンガへの造詣の深さに惹かれていきました。畑中純さん、永島慎二さんというレジェンドなマンガ家さんとのエピソードも出色の面白さでした。

文・中島泰司

2018年5月13日

銀座8丁目のカフェパウリスタにて



1コママンガ専門誌「EYEMASK」発行
野谷真治